

安全な食を求め 池田町で有機農業



大阪府豊中市出身
長尾 伸二さん
(40歳)

明るい笑顔が印象的な長尾伸二さん。11年目に入った池田町での農業生活に「ますます面白くなってきた」と目を輝かせる

移り住んで10年 真の豊かさ体現

「まっすぐ行つた信号のある橋をもういっぺん渡つたら見えてきますわ」。足羽川上流ののどかな山里、池田町。トラックに道を尋ねられて、長尾伸二さんはサトイモ掘りの手を止めた。「この町に信号は2つしかないから、すぐわかりますよ」。日焼けした顔に気さくな笑みを浮かべて車を見送る姿は、すっかり周りの景色に溶け込んでいた。豊かな自然と安全な食を求め、同町藪田に家族で移り住んで丸10年。そのきっかけとなった長男優輔君(17)のアトピー性皮膚炎はすっかり良くなり、二男の拓磨君(10)ともども、野球さんまの元気な日々を送っている。

「本当の豊かさとは」。その答えを体現すべく、伸二さんと妻の真樹さん(40)は農作業にいそしんでいる。

きっかけは 患子のアトピー

結婚の翌年、平成元年に優輔君が生まれると、長尾さん夫妻の生活は激変した。生後まもなく重度のアトピー性皮膚炎を患った優輔君のため、食事療法を始めたからだ。当時、食の安全に関する世間の関心は低く、有

機米や有機野菜は高価な上に、簡単には手に入らなかった。無添加無農薬の食生活は、想像以上に大変だった。独立を目標に、コーヒー専門店の店長として仕事に明け暮れていた伸二さん。家庭を守る真樹さんにはかなり負担が押し寄せていく現実。「これではあかん」という気持ちが強まった。環境



真樹さん手作りのマドレーヌをほおぼる拓磨君(右)

や食そのものにもだんだんと興味が向き、3年後には「子どもの食べるものを自分たちの手で作りたい」と考えるに至った。



妻の真樹さん(左)と。仕事でも家庭でも、2人はお互いに良きパートナーだ

そんな時、ある新聞記事が目にとまった。20年間農林業に従事した者に新築の家を与えるという、池田町の「ふるさと十字軍」という制度が紹介されていたのだ。記事を読んだ翌週には池田町を訪れ、まずは同町で有機農業を営む農家の元に通って研修を積むことに。その3年後の平成7年春、優輔君の小学校入学に合わせて家族4人で引っ越し、いよいよ池田町での新生活が始まった。

